

9 / 28 (木) の発表

報道発表資料の配付日時 9月28日(木) 15時00分

発表項目 (行事名)	ヘルパンギーナの流行について(警報)		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>令和5年第38週(9月18日～24日)において、江差保健所管内の定点あたりのヘルパンギーナ患者報告数が、警報基準である6人以上となりましたので、まん延を防止するため警報を発令します。</p> <p>資料については、別添のとおりです。</p>		
参考			

報道(取材)に当たってのお願い	注意喚起のため積極的な報道をお願いします。		
他のクラブとの関係	同時配付	(場所)	
	同時レク		

担当 (連絡先)	保健環境部保健行政室健康推進課長 松岡 TEL 0139-52-1053		
-------------	---	--	--

ヘルパンギーナの流行について（警報）

令和5年（2023年）9月28日（木）15時00分

北海道檜山振興局保健環境部
保健行政室（北海道江差保健所）
電話 0139-52-1053 FAX 0139-52-1074

道では感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき感染症発生動向調査を実施しておりますが、令和5年（2023年）第38週（2023年9月18日～2023年9月24日）において、江差保健所管内の定点医療機関あたりの患者報告数が、警報基準以上となりましたので、まん延を防止するため警報を発令します。

記

1 定点医療機関あたりの患者報告数（第38週速報値）

区 分	江 差	全 道※	全 国※
定点医療機関あたりの患者報告数	9.00 人	1.18 人	0.78 人

※注：全道・全国については第37週確定値（9月11日～9月17日）。

2 ヘルパンギーナの感染予防

治癒後も3～4週間は原因ウイルスが便中に排出され、感染しても発症しない例（不顕性感染）も多いため、感染者との接触を避けることは現実的に困難であり、特別な予防法はありません。手洗いやうがいを行っていると同時に、集団生活ではタオルなどの共用は避けましょう。

3 ヘルパンギーナとは

ヘルパンギーナは、急性のウイルス性咽頭炎で乳幼児を中心に夏季に流行する夏風邪の代表的疾患です。特に4歳以下の小児に多く、主に飛沫感染・経口感染（糞口感染）し、2～4日の潜伏期を経て突然の発熱とともにのどの奥に痛みを伴う水疱・潰瘍をきたします。

重症化することは少なく、2～4日で症状は落ち着きますが、熱性けいれんやのどの痛みによる食欲不振・脱水症を起こすことがあります。

また、まれに無菌性髄膜炎やウイルス性心筋炎などを合併することもあるので、頭痛・嘔吐や様子がおかしいといった症状がある場合は注意が必要です。

なお、流行状況は、北海道感染症情報センターのホームページでご覧になれます。

(URL : <http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/610/data.html>)

4 参考

(1) ヘルパンギーナ警報とは

厚生労働省の感染症発生動向調査により、江差保健所管内の定点医療機関を受診したヘルパンギーナ患者数が、国立感染症研究所において設定した警報の発令基準値に達した場合に発令し、大きな流行の発生や継続が疑われることを示しています。

【発令基準】警報：1 定点医療機関あたりの受診患者数が1週間で6人以上となった場合
※警報発令後は1 定点医療機関あたりの受診患者数が2人以上であれば警報を継続

(2) 最近5週間における定点医療機関からのヘルパンギーナ患者報告状況

(表示は、「患者/定点」単位：人)

	第34週 (8/21～8/27)	第35週 (8/28～9/3)	第36週 (9/4～9/10)	第37週 (9/11～9/17)	第38週速報値 (9/18～9/24)
江 差	3 (1.50)	2 (1.00)	1 (0.50)	8 (4.00)	18 (9.00) ※
全 道	253 (1.82)	247 (1.79)	156 (1.11)	165 (1.18)	集計中
全 国	3,401 (1.09)	3,371 (1.07)	2,903 (0.92)	2,422 (0.78)	集計中

※第38週の患者報告数は速報値。